

3G-2

文書処理ワークステーション上の
英和電子辞書システム(2) - 評価 -

岡満美子、宮内忠信、松永義文
富士ゼロックス(株) システム技術研究所

1. はじめに

オフィスワークステーションJStar上に英和電子辞書システムを構築した。この英和電子辞書は、キーワード検索を基本とした約4万語の基本辞書であり、簡便なユーザインタフェース、多様な検索キーからの柔軟な検索、検索の高速性の実現を基本方針として設計したものである[1]。

本稿では、本英和電子辞書を特に実用性の面から評価した結果について述べる。

2. 評価方法

実用性という視点で評価するには、実際の使用に基づくエンドユーザのフィードバックが非常に有効である。そこで、社内の実際の現場での使用を行い、フィードバックに基づいて本英和電子辞書の評価するという方法をとった。多少にかかわらずワークステーション上での英語関連業務をもつユーザを対象とし、約1年4か月間社内使用を行った。この間に、フィードバックを得るため2回のアンケート調査を実施した(有効回答数はそれぞれ89、158)。これらの結果を分析して本英和電子辞書の評価した。

3. アンケート結果に基づく評価

3.1 業務中での使用状況

まず、本英和電子辞書が実際の業務でどのように使われ、どの程度有効であったかについて述べる。

アンケート結果から、本英和電子辞書を英文の読解に使っている人は約80%、英文の作成に使っている人は約40%であり、読解が中心であることがわかった。具体的な用途としては、図3.1に示すように意味の確認とスペルの確認が多かった。

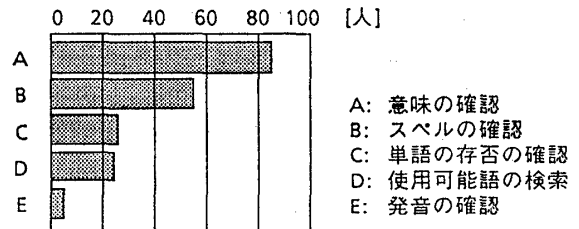


図3.1 本英和電子辞書の用途(第1回アンケート結果より)

また、本英和電子辞書の使用による英語関連業務時間の短縮率を、英語を扱う業務の時間的比率別にみると、表3.1のようになった。

表3.1 本英和電子辞書使用による英語関連業務時間の短縮率(第2回アンケート結果より)(表中の数字は[人])

英語関連業務時間 [%]	英語関連業務時間の短縮率[%]						計
	0	~5	~10	~20	~30	30~	
~5	6	8	6	3	23	7	53
5~20	8	5	15	16	22	2	68
20~80	5	8	8	3	6	1	31
80~100	0	2	2	1	1	0	6
計	19	23	31	23	52	10	158

英語関連業務の比率とその短縮率の間には明確な相関はなく、平均すると本英和電子辞書の使用により英語関連業務の時間的な生産性が10%程度向上していることがわかった。

3.2 設計方針に対する評価

次に、本英和電子辞書の設計方針である簡便なユーザインタフェース、多様な検索キーからの柔軟な検索、検索の高速性に対して、どのような評価が得られたかについて述べる。

① 簡便なユーザインタフェース

ユーザインタフェースでは、特に以下の点が高く評価された。

- ② 3つのサブウィンドウ(検索キー入力部、見出し履歴リスト、内容表示部)と検索ボタンのみのシンプルな構成

- ③ ボタンひとつで検索できる簡易な操作性

- ◎ JStar上の文書処理環境と統合されており、文書中の単語の検索や検索結果の文書への取込みが簡易かつ一貫性をもった操作でできる点

これより、簡便なユーザインタフェースという点では、設計時にめざしたような評価が得られたと言える。

② 多様な検索キーからの柔軟な検索

本英和電子辞書では、英単語からの検索のほか、発音のカタカナ表記からの検索(以下カタカナ検索と呼ぶ)と対訳表記中の日本語語義からの検索機能を実現している。

このうちカタカナ検索については、特にスペルの確認に役に立つことがわかった。カタカナ検索機能が役に立ったかどうかを、本英和電子辞書をスペルの確認のために使っている人と使っていない人で比較してみると、図3.2に示すように大きな違いが認められる。

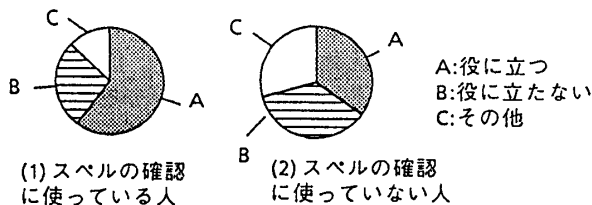


図3.2 スペルの確認におけるカタカナ検索の有効性 (第1回アンケート結果より)

また日本語語義からの検索は、本英和電子辞書の和英辞書的な使い方を可能にしている。このため、ベースが英和辞書であるにもかかわらず英文作成の場面でも利用できることがわかった。しかしながら現状のレベルでは英文作成の支援には不十分であるとの意見も多く、活用語尾や同義語など表現の違いにとらわれない検索などが今後の課題として挙げられている。

このように、多様な検索キーから検索できることにより、本英和電子辞書は冊子体の英和辞書等と比較して、より幅広い場面、用途に使用できるものになっている。一方、それぞれの検索キーにおいて、より柔軟に検索できる機能が求められている。

③ 検索の高速性

検索速度は実用上十分であるという意見が多く、検索の高速性は全般に高く評価されたと言える。

4. 考察

4.1 ワークステーション上の辞書の有効性

大部分の社内ユーザにとって、これまでは冊子体の辞書が中心であった。これに代えてワークステーション上の英和辞書を使用することにより、文書処理中に、同じ環境中で、特に作業を中断することなく辞書を参照することができるようになった。これはワークステーション上での文書処理が多い社内のユーザにとって大きな利点となっている。このように、文書処理に利用できるワークステーション上では、その文書処理環境の一部としての辞書システムが非常に有効なものであると言える。

4.2 スペルの確認のための英和辞書

本英和電子辞書は、意味の確認という最も基本的な用途に次いで、スペルの確認に使われている。

英文作成時にはスペルの確認のために辞書を引くことも多いが、冊子体の英和辞書は、アルファベット順に並んだスペルに基づいて引くためある程度スペルを予測できなければ使えない。

これに対して本英和電子辞書では、カタカナ検索機能を利用することにより、発音さえわかればスペルがわからなくても検索できる。例えば、「スウェード」で検索することにより、「suede」を見出し語とする内容が得られる。また、「スウェード」と「スエード」のようなカタカナの表記のゆれを気にせず引けるため、より柔軟に検索できる。

このカタカナ検索機能に加え、検索の高速性や簡易な操作性により、本英和電子辞書はスペルの確認という用途にも非常に手軽に利用することができる。

5. おわりに

アンケート調査に基づいてワークステーション上の英和電子辞書システムを評価した。この結果、本英和電子辞書は英文の読解の場面を中心に実的に使えることが確認できた。

参考文献

- [1] 宮内、岡、松永:「文書処理ワークステーション上の英和電子辞書システム(1)-実現-」、情報処理学会第44回全国大会3G-1、1992年